

[参考資料 3]

## 伊能 嘉矩 ～台湾と遠野のかけ橋～



伊能嘉矩は慶応3年(1867)5月9日、横田村新屋敷(今の遠野市東館町)の代々南部家に仕える学者の家系に生まれました。幼名を容之助(ようのすけ)、名前を祖父・友寿(ともなが)の幼名を継いで嘉矩(かのり)と名乗りました。

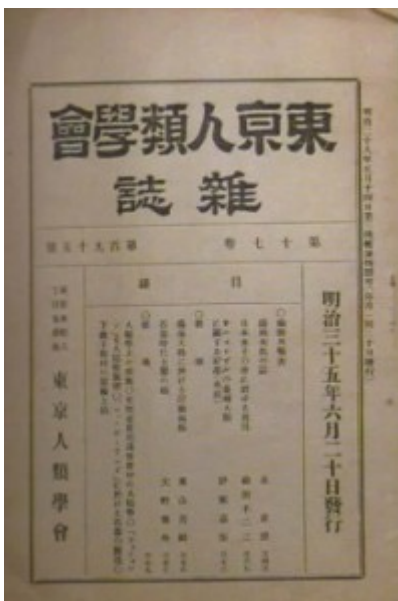
嘉矩が3歳の時に母千代子が病気で亡くなり、翌年に父守雄は医学を学ぶため上京し、嘉矩は曾祖父九十九(つくも)、祖父友寿、祖母志奈のもとで育てられました。

幼い頃から勉学に励み、19歳の時に『日本維新外史』(漢文)、27歳の頃には大日本教育新聞の編集長となり『戦時教育策』や『戦時教育修身君』などを著しています。



オシラサマ 東北地方を中心に信仰される家の神・蚕の神・目の神

27歳のとき坪井正五郎に師事して人類学を学び、日本ではじめて東北地方のオシラ神信仰を「奥州地方に於いて尊信せらるオシラ神に就いて」と題して学会誌に発表しました。



昭和35年6月発行「東京人類学会雑誌」195号

明治 28 年(1895)伊能は学んだ人類学を実践するための新しい場所を求めて、台湾に渡りました。伊能は台湾総督府で仕事をしながら様々な種族の言語・習慣・生活様式等の調査に情熱を傾け、明治 39 年(1906)に帰国するまでの 10 年間に『台湾藩政志』をはじめ、多くの論文を執筆しました。

遠野に帰郷後は『台湾文化誌』などの台湾調査の原稿をまとめ、遠野の歴史と民俗の調査を行い、『上閉伊郡志』『遠野史叢』『遠野方言誌』などの執筆に打ち込みました。



### 明治34年12月台湾にて

また、『遠野物語』出版の前年にあたる明治42年(1909)、柳田国男が遠野を訪れました。その時に伊能は初めて柳田国男と対面します。二人は台湾での研究や民俗資料、遠野の伝承について話を弾ませました。

しかし、大正14年(1925)台湾で感染したマラリアが再発し、伊能は9月30日に59歳で亡くなりました。

伊能が亡くなった翌年には、伊能先生記念郷土学会が柳田国男を顧問に設立されました。伊能嘉矩の遺稿である『遠野方言誌』や『台湾文化誌』を出版し、伊能の功績を後世に伝えています。

## ◎ 年表

- 慶応3年(1867)5月9日(新暦6月11日) 伊能嘉矩誕生
- 明治13年(1880)14歳 横田村一番小学校全科を卒業  
その後は外祖父江田霞邨(かそん)らの教えを受ける
- 明治19年(1886)19歳 12月 給費推挙生として岩手県師範学校に入学
- 明治22年(1889)23歳 3月 岩手県師範学校退学、その後上京
- 明治26年(1893)27歳 3月 大日本教育新聞の編集長となる  
10月 東京人類学会入会、坪井正五郎に師事
- 明治27年(1894)28歳 4月 人類学教室を開き「オシラ神に就き」を発表する  
5月 『人類学雑誌』に「奥州地方に於いて尊信せらるオシラ神に就いて」を発表
- 明治28年(1895)29歳 11月 台湾総督府嘱託となる  
12月 「台湾人類学会」創立
- 明治35年(1902)36歳 『台湾年表』を発行
- 明治41年(1908)42歳 2月 遠野に帰る
- 明治42年(1909)43歳 8月 柳田国男と対面
- 明治43年(1910)44歳 「遠野史談会」を設立
- 大正10年(1921)55歳 『遠野史叢』発行
- 大正14年(1925)59歳 9月30日 逝去
- 大正15年(1926) 「伊能先生記念郷土学会」設立
- 昭和3年(1928) 『台湾文化誌』発行